

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	名古屋市中央療育センター		
○保護者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	65	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 17
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	在籍児童に対して、国基準以上の職員配置を行うとともに、経験を積んだ保育士等が多く在籍しており、手厚い療育を提供することができる。通園担当看護師が、医療面を含め、児童、保護者の状況把握や相談等の対応、支援を細やかに行っている。難聴児（人工内耳装用児含む）に対応できる言語聴覚士がいて聴力検査や補聴器のフィッティング等、専門性が高い体制をとれている。	特に食事時は、各児童に対する必要な介助方法が異なるため、フリーの保育士を柔軟に配置する等の工夫をしている。	本市主催の早期子ども発達支援担当職員研修や所内の研修に、職員の参加等を促し、職員のスキルアップを推進する。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内での児童、保護者に対する支援や取組はしっかり行えているが、登園率がやや低い傾向にある。	共働き世帯の増加等により、就労支援が必要となってきた時代背景の中、親子による登園方法が保護者の利用への負担となっていることが考えられる。	保護者ニーズの把握と所管課、他児童発達支援センターとの情報共有を図っていく必要がある。
2			
3			